

船舶事故調査報告書

平成28年3月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成27年10月5日 07時40分ごろ
発生場所	愛媛県上島町弓削島北岸沖 土生港向浜防波堤灯台から真方位110° 1.4海里付近 (概位 北緯34° 17.5′ 東経133° 13.4′)
事故の概要	プレジャーボート河崎丸は、航行中、浅所に乗り揚げた。 河崎丸は、舵軸及びプロペラ軸に曲損等を生じた。
事故調査の経過	平成27年10月19日、調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済み
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 河崎丸、5トン未満（長さ7.61m）
船舶番号、船舶所有者等	273-4110広島、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	舵軸及びプロペラ軸に曲損、船底に擦過傷等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 3、視界 良好 海象：波高 約1m、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	本船は、釣りをしながら漂泊中、風で圧流されて弓削島北岸に接近したので、機関のクラッチを前進に入れ、船首を西方に向けようと左転したところ、浅所に乗り揚げた。 本船の喫水は、船首約0.2m、船尾約1.2mであった。 船長は、‘弓削島北岸沖の浅所’（以下「本件浅所」という。）の存在について知っていたが、弓削島北岸から約100m離せば安全に航行できると思い、海図等で本件浅所の拡張状況を確認していなかった。
分析	本船は、船長が、弓削島北岸から約100m離せば安全に航行できるものと思い、海図等で本件浅所の拡張状況を確認していなかったことから、風で圧流されて同島北岸に接近した際、本件浅所に向かって航行することとなったものと考えられる。
原因	本事故は、船長が海図等で本件浅所の拡張状況を確認していなかったため、本船が、風で圧流されて弓削島北岸に接近した際、本件浅所に向かって航行することとなり、本件浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・海図や沿岸小型船舶用参考図で水路調査をしておくこと。